

里親もつと増やしたい

聞きたい

のに精いっぱい、子どもが甘えたり、わがままを言ったりする環境とはほど遠かった。

大学卒業後は県職員となり、児童相談所に勤務して里親制度の普及活動などに取り組んできた。05年に退職し、

若者に制度を知ってもらうため、大学での出前講座にも力を入れている。

同センターによると、05年4月に14・9%だった同市の里親への委託率は、今年4月時点で43・8%と大幅に上昇。取り組みは全国的にも注目されるようになった。一方、

「子どもたちには、家庭で一对一の愛情を注がれる生活を送りたい」。そんな思いから、家庭で子どもを育てる里親制度への関心を強く

同市里親会の会長として、里親同士が悩みを語り合って精神的な負担を減らす「里親サロン」や、ベテラン里親によ

「どれが欠けていても駄目。社会全体で子どもを育てる仕

「子育てを終えた世代などが、自分のできる範囲で参加しようと思ってもらえるようにしたい」。里親同士がつながり、自宅を歩き来して親戚のように付き合う姿に、大きな家族の輪ができていくように感じる。その輪をさらに広げ、より多くの子ども笑顔につなげたいと願っている。

静岡市里親家庭支援センター理事長

真子 義秋 さん 70



里親制度について語る真子さん（静岡市葵区で）

佐賀県出身。大学卒業後、静岡県職員として、児童相談所や、センターの相談業務などを務め、2005年に静岡市里親会の会長に就任し、10年から現職。同市駿河区在住で、毎朝犬を散歩させている。

(塩島祐子)